

暖身器具使用時における高齢者と若年者の温熱適応に関する研究

○五十嵐由利子* 中野祥子*
(*新潟大学)

目的 住宅の断熱化及び各種暖房器具の普及により、容易に室内を快適温度に保つことが可能となっているが、わが国の伝統的な暖身器具である炬燵は、今も多くの家庭で使用されている。本研究では、このような暖身器具によって身体の一部を暖めた状態から低温環境への移動に対し、高齢者がどのように適応しているか、また、若年者との間に相異があるかを比較検討することを目的とした。

方法 20℃の暖房室と11℃の非暖房室を実験室内に用意し、暖房室内に炬燵を設置した。環境馴化のため暖房室内で30分在室した後、炬燵に入り実験を開始した。35分後に非暖房室に移動し、15分後に暖房室に戻り再度炬燵で暖をとり、実験開始後100分までを1回の実験とした。この間、皮膚温・血圧・脈拍の測定と温冷感・快適感の主観申告を得た。被験者は健康な高齢者21名（男性10名、女性11名）と若年者20名（男性9名、女性11名）とした。なお、着衣は高齢者及び若年者の一般的な着衣状態を指定した。

結果 1)各部皮膚温の変動は、高齢者の方が男女とも非暖房室入室後の低下が小さく、また、低下が遅れる傾向が見られ、非暖房室出室後の上昇も緩やかであった。2)下腿皮膚温の非暖房室への移動による低下に、高齢者、若年者とも男女差が認められた。3)若年者の血圧は、非暖房室入室後に上昇するものの、出室後すぐに戻る傾向が見られた。一方、高齢者は若年者に比べ変動が大で、また個人差も大であった。4)脈拍については、年齢差及び男女差は見られなかった。5)非暖房室入室後の温冷感・快適感は、高齢者の方が遅れる傾向が、そして、出室後は暖かさを過大評価する傾向が見られた。